



櫛をつなぐ

校長 菊地 恵美子

令和5年がスタートしました。昨年は、コロナ禍の中でもできることを模索し、保護者・地域の皆様のご支援やご協力をいただきながら、子供たちが充実した学校生活を送ることができました。誠にありがたく、感謝申し上げます。今年も引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

いよいよ4月から、中一小も「コミュニティスクール」となります。すでにご協力いただいている学校応援ボランティア（なかいち応援団）では、45人の方にご登録いただき、延べ7人の方にサポートをいただきました。鹿島神社の写生時の見守りやミシン、電動糸のこ器使用時のサポート等により、子供たちが伸び伸びと活動できました。大変ありがたかったです。今後、コロナ禍が収まれば、低学年の町探検や中学年の地域での体験活動等も再開します。子供たちが体験活動から得るものは計り知れません。これからも、保護者の皆様、地域の皆様のお力をお借りして、子供たちを伸びやかに育てていきたいと思っております。どうか、今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

さて、お正月と言えば箱根駅伝です。今年も盛り上がりました。県南出身の私は、県北地区の中学校に勤務するようになって、箱根駅伝に興味をもつようになりました。それは、県北地区の方々の駅伝に対する熱い想いを知ったからです。県の中学校駅伝大会では、県北の学校が常に上位をしめていました。選抜された子供たちは、毎日、部活動と両立しながら練習に励んでいました。その中でも、中郷中学校は毎年のように関東大会、全国大会までコマを進める強豪でした。実際に箱根を走った同僚からは、「目標を達成するためにコツコツと努力した日々は並大抵のものではない」という話も聴きました。その同僚は中郷中出身ですが、その土台にあったものは、「かつての中郷中学校には運動会の種目に持久走があった」ということや、中郷町全域を走る「町内一周駅伝大会」が71年も続いていることなのだと、伝統の重みをひしひしと感じているところです。

駅伝のよさは、「チームで戦う」ことです。10人が櫛をつないで走る中では、途中、体調が悪くなって遅れてしまう人がいても、その分を他のメンバーの力で挽回することができます。選手に選ばれなくて、残念な思いをした人も、自分の分まで頑張りたいとサポートします。選手は、そのサポートに力をもらい、自分の限界を超えて走ることが可能になります。一人だったら、つらくて走るのをあきらめてしまうかもしれないけれど、チームのみんなの応援やサポートを思うと、あきらめるわけにはいきません。みんなの期待を背負っているからです。「チームで戦う」ってそういうことです。「みんながいるから頑張れる」ということです。

チームで戦う、チームで様々なことを成し遂げる、このことは、これから予測不可能な時代を生きていく子供たちにとって、とても大切なことです。自分の長所を生かし、足りないところは補い合って、協働しながら課題を解決していく。様々な体験の中で、子供たちに身に付けさせていきたいと思っております。

1月の行事予定

- 12日（木）：学力診断テスト（国・理）
- 13日（金）：学力診断テスト（算・社）
- 14日（土）：手をつなぐ子らの作品展（～26日）
- 17日（火）：**弁当の日**
- 18日（水）：SC来校

2月の行事予定

- 7日（火）：**弁当の日**
- 8日（水）：SC来校
- 21日（火）：**弁当の日**
- 24日（金）：授業参観